

《巻頭言》

助かった命、未来へ続く命を大切にしましょう

作田 学

日本禁煙学会 理事長

このたびの東日本大震災(2011年東北地方太平洋沖地震)・津波で亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また災害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

未曾有の規模の大地震・津波に遭われ、今なお余震の中で過ごしておられる皆様のご心労は、察するに余りあります。被災地で日夜救援活動をされておられる皆様に心から感謝申し上げます。

私は、福島第一原発から30 kmの地点でこの巻頭言を書いています。

2011年3月11日午後2時46分に起こった東日本大震災から1か月が過ぎました。

巨大地震、大津波、原子力発電所の大事故が相次いで起こり、日本人の顔から笑顔が消えました。その後は無数の余震、火災、原発からの放射性物質の垂れ流し、無残な津波の痕々、寒冷、水・食べ物・灯油・ガソリンの欠乏等々が現在もなお続いている被災地があります。一方で災害復旧に身を挺している人々の献身と全国からの支援が私たちの希望をつないでいます。

日本禁煙学会にも世界中から支援の声が届けています。最初に届いたのが、全世界の禁煙推進のグループからの温かい「大丈夫ですか?」メールでした。とくにGLOBALinkなどで、

- ・オーストラリアのハーレイ・スタントン博士
- ・フィンランドのマッティ・ロータラント博士
(対がん協会)
- ・オーストラリアのメアリー・アスタ博士
- ・カナダ Waterloo 大学のアンヌ・クォー博士
- ・カナダのジョフリー・フォン博士
- ・オーストラリア Sydney 大学の
サイモン・チャップマン教授
- ・香港のジュディス・マッケイ教授
- ・ハワイのマーク・レビン教授
- ・トルコのエルフ・ダリ博士

- ・チリのパズ・コルバランさん
- ・インドのミラ・アギーさん
- ・台湾のテッド・チェン教授
- ・フィリピンのユル博士
- ・ロシアのアンドレイ・デミン博士
(ロシア公衆衛生協会)
- ・ネパールのバラプール・チトワン博士
(対がん協会)
- ・アルゼンチンのノガレス・メンドーザ博士
- ・アルゼンチンのイルマ・ゲルヒさん
- ・私の恩師のミネソタ大学ウィリアム・ケネディ教授
など多くの方々からいち早くお見舞いと支援の
メールが届けられました。

これに対し、

Dear Simon, and many others:

On behalf of the Japan Society for Tobacco Control, I fully thank to you. Our headquarter in Tokyo is safe, however, devastating situations up north are shown in the TV. I am praying the members of our society to be safe.

Manabu SAKUTA MD

The Chairman of Board of Directors

Japan Society for Tobacco Control

と、お礼の返信を行いました。これは地震発生直後1~2日の出来事でした。

一方、震災当初、仙台市にさえ連絡が取れないため、安否に関して深く憂慮しましたが、私の確認できた範囲で、被災地の日本禁煙学会員で大きな身体的被害を受けた方はおられなかったようであり、僥倖と安堵しました。

その後の1週間はどこまで続くぬかるみぞの、福島原発の大事故の連続でした。

これらに対処するに「寛容」、「臨機応変」、「専門家への委託」の三つが大切であるとのこと指摘をいただきました。これによってどれほど自分の心が救われたかわかりません。とくに原子力発電所

の大事故に関係して、あらゆる情報が錯綜していました。その多くは新聞紙上であっても素人の思いつきの発言でありましたが、これらをまったく信用しないことで、正確な情報がかえって得られたと思っています。震災後1~2週間で東京から想像以上の速さで外国の方々が出国したようですが、その引き金になったのは、IAEA (International Atomic Energy Agency) の幹部の誤発言(福島発電所で核爆発が起こった模様である)が基になったということです。

当然のことですが、震災被害によるアスベスト飛散が問題になりました。壊れた家々、工場などに使われていたアスベストが飛散して人々の健康を脅かすことが問題となるからです。その一方で、「今、そこにある危機」としての、能動喫煙や受動喫煙が問題にされることはありませんでした。それどころか、原発でのストレスあふれる労働がすんだ人たちが狭い部屋で、ふるえる手でタバコを吸う姿がテレビに映されました。さらに被災地で焚き火にあたりながらタバコを吸う姿が繰り返し、放映されました。さらに、タバコをお見舞いに持っていくアルピニスト、映画監督がいかにも善行をしていると誉めたたえるマスコミがありました。確かに、一見、大震災という惨状のもとで、一片の休息を喫煙に求めたくなる喫煙者の心理は全く理解できないわけではありません。しかしながら、ここで私には以下の思いが湧き上がってきました。あれほどの大災害を潜り抜けて守り抜いた命を、喫煙によって簡単に散らすべきではない、未来のために生き続ける命を守ることを最優先課題にしようではないかという思いがふつふつと湧いてきたのです。このころ被災地を回っている日本禁煙学会の会員からも「助かった命ですので、ぜひ大事にしてください。タバコを吸わず、元気で復興することが、亡くなった方への何よりの供養になるはずです。」とおっしゃっていることを伺いました。

そこで、私たちは被災地における喫煙対策が災害に遭われた方々の命と健康を守り、感染症や心筋梗塞といった二次災害を減らすための緊急課題と考え、3月31日に以下の事項を呼びかけました。

1. 受動喫煙防止へのご協力ありがとうございます

受動喫煙は、からだの弱い乳幼児・小児・高齢者等が上気道炎、急性肺炎にかかる危

険を大きく増やします。成人についてもそうした危険を増やします。

また、喘息発作や心筋梗塞を起こしやすくなります。受動喫煙がなくなるよう、避難所は敷地内禁煙の徹底を宜しくお願いします。

2. 大震災後の被災地では、上気道炎(風邪)や肺炎が増えます

喫煙を続けると気道の粘膜がただれ免疫力も弱まり、インフルエンザ等による上気道炎や肺炎にかかりやすくなり、重症化しやすくなります。ぜひ上気道炎や肺炎の予防のためにタバコをやめましょう。

3. 大震災後の被災地では、胃腸炎が増えます

タバコを吸う方は、2~3倍ノロウイルスによる胃腸炎に罹りやすくなります。ノロウイルス対策としてもタバコをやめるようお勧めします。

4. 大震災後の被災地では、心筋梗塞・脳卒中が増えます

タバコをやめると、速やかに心臓病・脳卒中の危険が減ります。周りにいる方の心臓病・脳卒中発作も減ります。心臓病・脳卒中発作予防のためにもタバコをやめましょう。

さらに4月9日には禁煙治療と支援委員会を中心に「買いだめ」よりも「もう吸わない選択を」を国民に要請したところです。

私の目の前には豊かな緑が広がっています。私は、わが国でこの福島の地をはじめとする東北地方が、果物、米、野菜などの素晴らしい農産物を毎年生み出してきた素晴らしい土地のひとつと考えています。放射能に汚染された土地の浄化を迅速に進め、風評被害も乗り越えることにより、福島の豊かな土地が生み出す農産物などの恵みを早くよこぎりたいものです。

また、岩手県、宮城県、福島県、茨城県などの沿岸部の復興計画も検討が行われています。それにより、数年後には災害に強い、美しい都市があらたに出現することでしょう。それまでは日本中の応援が復興に向けて行われるでしょう。その

ためには、被災地で生産された農水産物の消費を我々が応援する必要もあるでしょう。

同時に新生日本の新たなエネルギーにあふれる

社会の形成とともに、喫煙や受動喫煙の害を過去のことにする社会を創造する時に差し掛かっていると信じてやみません。